

専門研修施設（連携施設）の選択

- ・ 専門研修（専攻医）1年目の秋に専攻医の希望・将来像、研修達成度およびメディカルスタッフによる内科専門研修評価などを基に、研修施設を研修プログラム管理委員会で調整し決定します。
- ・ 連携施設の選択は、専攻医の志望するキャリアパスと春日井市民病院の地域医療連携関係によります。内科医師としてのキャリアパスを名古屋大学関連で希望する場合、A グループ（小牧市民病院、公立陶生病院、岐阜県立多治見病院、名古屋医療センター、江南厚生病院、名古屋第一赤十字病院、名城病院、東濃厚生病院、東海中央病院、土岐市立総合病院、名古屋大学医学部附属病院）内から選択します。そのキャリアパスを名古屋市立大学関連で希望する場合（消化器科）は B グループ（名古屋市立西部医療センター、旭労災病院、名古屋市立大学病院）内から選択します。A グループ、B グループともに高次機能・専門病院、地域基幹病院、地域医療密着型病院を含み、内科領域の多岐にわたる疾患群を経験できます。
- ・ 春日井市民病院は、これまで名古屋大学、名古屋市立大学の内科医局と関連、連携することで内科領域において地域住民に最善の診療を提供し貢献してきました。本プログラムも名古屋大学、名古屋市立大学の内科医局及び関連病院の連携により構築されています。大学医局は関連病院との関係のみならず医療関係の幅広い人とのつながりを持っています。本プログラム専攻医は、自己のキャリアパス形成において、医局の持つ人とのつながりを最大限に活用し支援を受けます。一方、医局は密接な連携を維持することにより東海医療圏の極端な医師不足を回避・調整するように配慮し、東海医療圏の患者さんが安心して最善の医療を受けられるようにしています。このため、専攻医 1年目の 12 月までに志望医局（A グループ：名古屋大学、B グループ：名古屋市立大学）に入局することを促します。